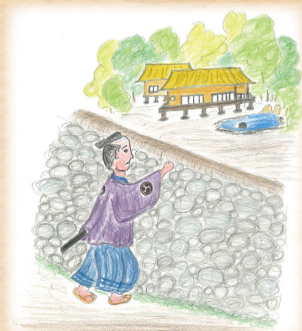


越後村上藩の2人の殿様

寛文5年(1665)5月22日、越後村上5万石の藩主松平直矩なおのりが参勤交代で江戸から領国村上に帰る途中、野沢宿の橋谷田又右衛門宅に宿泊しました。橋谷田又右衛門は野沢組郷頭はしやだまたえもん(野沢組のトップ)兼駅所検断えきしよけんたん(野沢駅所の最高責任者)でした。当時、野沢宿には参勤交代の大名や幕府の役人などが宿泊する決められた宿泊施設はまだなかったので、野沢宿1番の権力者又右衛門宅に宿泊したのです。直矩は午後4時頃、又右衛門の案内で宿の裏道から「館の清水ひごどのちやや(後の代官清水)」を通して「肥後殿茶屋ひごのちやや(保科正之が領内巡見の時に宿泊する施設、場所は今の町役場)」をこっそり見物に出かけています。



▲ 肥後殿茶屋をのぞく松平直矩
イラスト：田崎敬修

さて、この松平直矩は「引越し大名」という映画になったほど引越し(国替え)を何度もさせられた珍しい大名です。直矩は徳川家康の次男結城秀康ゆうきひでやすの孫で、父は越前国大野藩(福井県)の藩主でしたが、山形藩、さらに姫路藩(兵庫県)に国替えを命じられ赴く途中に死去しました。そのため直矩は慶安元年(1648)、5歳で家督を相続しますが、姫路は西国を抑える要衝の地であるため翌慶安2年、越後村上藩(新潟県)に国替えになります。「肥後殿茶屋」を見物したのは22歳の時です。その後、寛文7年(1667)に姫路(2回目)、天和2年(1682)に日田藩(大分県)、貞享3年(1686)に山形(2回目)、元禄5年(1692)、白河藩15万石に最後の国替えとなり、3年後の元禄8年(1695)、享年54歳で生涯を閉じました。

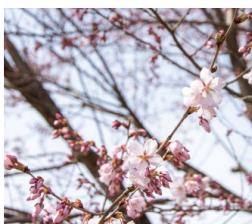
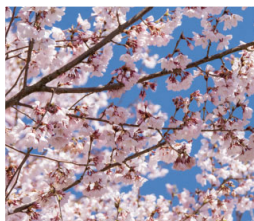
村上藩は、村上家—堀家—本田家—松平家(直矩)—榊原家—本田家—松平家—間部家—内藤家とめまぐるしく藩主が替わりましたが、内藤家5万石で安定し幕末まで続きます。宝暦11年(1761)、内藤信旭のぶあきらが家督を継いで内藤家4代藩主となります。翌宝暦12年(1762)、江戸へ向かう途中、下野尻宿で休憩して出発しましたが、気分不快となり坂下宿で動けなくなてしまいました。会津藩から見舞いの使者や藩医などが坂下に駆けつけましたが、病状が思わしくないため野沢宿に1泊して帰城の途に就きました。この間、国元からご家来衆の往来が頻繁に行われ、坂下を発つ時にはお世話になった会津藩などにお礼をし、殿様の様子を伺っても何事もないかの様子で、周囲の人々はご家来衆の立派な態度に驚いたそうです。しかし、信旭は坂下宿で5月28日、19歳の生涯を終えたのでした。



▲ 最後の居住地白河市にある松平直矩の墓

(参考文献：西会津町史第1巻・通史I, 郷土誌 西会津町)

4月8日の桜 ▶



◀ 4月10日の桜

西小の校庭脇に咲く桜を撮影しました。4月8日の入学式の日にはまだ咲き始めでしたが、2日後の10日には満開になっていました。ぜひ皆さんのおすすめの桜スポットも教えてください！
(伊藤)

編集後記

今月は、西会津小学校の入学式から。これから始まる小学校生活にウキウキしている新入生とその姿を見守る保護者の皆さんの笑顔が広がっていました。(6ページに関連記事)

今月の表紙